



平和ときずな

戦後 70 年記念事業報告書

平成 28 年 2 月

大阪市都島区役所

趣旨

大阪市では、戦後70年の節目を迎える平成27年度に、戦争の悲惨さや残酷さなどを伝えるとともに、改めて平和を考える取組を実施してきました。

都島区役所でも、戦争の歴史を区民の皆様とふりかえり、記憶を共有し、次の世代につなげていく機会として、「都島区 戦後70年記念事業」に取り組みました。

1. 区長挨拶	2p
2. 事業概要	3p
3. 地域の取組	5p
4. 区内の史跡	7p
5. ご提供頂いた写真と資料	10p
6. 資料集	17p

報告書内の記述について

様々な注意を払って掲載しておりますが、戦後70年経過した現在の情報に基づいて作成しております。その内容の正確性等については、今後修正を行うこともありますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

区長挨拶

戦後 70 年の節目の年にあたる平成 27 年。大阪市では、戦争の悲惨さや残酷さ、また平和の大切さについて市民の皆様と一緒に考えるべく、様々な取組を実施して参りました。

市内各区でも独自施策が行われる中、都島区役所では、広く区民の皆様から戦前～戦後の都島区内における写真等の資料を集め、デジタルアーカイブ化する事業を企画・実施しました。都島の「歴史」を区民の皆様（特に子どもたち）と共有し、一緒に戦争や平和について考え、さらに後世に情報を残していく事が目的です。

結果的には数々の貴重な資料を集める事が出来ましたが、当初は「戦争で全部燃えてしまいました」「都島には殆ど残っていないと思いますよ…」というお話が多く、資料も殆ど集まらない状況。都島区の空襲等による被害がいかに大きかったか、改めて思い知らされました。

資料収集にあたっては、地域の方々や、区内のお店の方々に非常に助けいただきました。特に、参列させていただいた 6 月の東都島戦没者追悼式、7 月の京橋駅空襲被災者慰霊祭等では、様々な生のお話を伺う事ができました。貴重な情報や資料をご提供いただいた皆様、アドバイスをくださった皆様、本当にありがとうございました。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

現在そして未来の都島の子どもたちが、「平和」について考え、行動してくれるように。みんなで、安全・安心なまちづくりに取り組んでいけるように。この都島区の戦後 70 年事業が、「明日の都島」に繋がる一助となることを願ってやみません。

大阪市都島区長 田畑 龍生

事業概要

写真募集

区民の皆さんから、戦前から戦後までの写真や資料を募集しました。

広報誌、ホームページ、フェイスブック、ツイッター、口コミなどで、「まずは、お話をお聞かせください」とお声がけしました。

「当時はカメラを持っている人は少なかった」、「写真はあったが、被災した」・・・など、最初は集めるのが難しく感じられましたが、新聞などでとりあげられると、次第に口コミで広がり、区外にお住まいの都島区に関わりのある皆さんを含め、90点あまりの資料をご提供頂きました。

戦前70年記念事業

戦前から戦後の写真を募集します！

今年、平成27（2015）年は、昭和20（1945）年8月15日の終戦からちょうど70年の節目の年です。

都島区では、今年の夏に戦前、戦後の写真などのパネル展示を企画しており、そのパネル展で展示する写真などを、区民の皆さんから広く募ります。

昔の写真を通して家族の歴史をみんなまで共有し、次世代に残していきたいませんか。

ご自宅などでお持ちの写真などを、ぜひご提供ください。

●募集するもの

戦前（昭和初期）から戦後（昭和30年頃）に至るまでの、	主に戦前の風景などが写っている、	写真、8ミリフィルム、または戦争に関するものなど
-----------------------------	------------------	--------------------------

【写真などに写るエピソードなどもお聞かせください。】
※古い写真は、写真本体をお借りするなどのし、こちらで複製（はキャッシュ）をさせていただきます。
※ご提供いただいた写真などの使用権は本館内に帰属します。

●展示期間 平成27年8月31日（月曜日）
●問合せ先 都島区役所総務課（政務企画）10番窓口
●電話番号 06-6882-9683

まずは、お話をお聞かせください。

区民ギャラリーでの展示

区民の皆さんからご提供いただいた戦争当時の貴重な写真や資料、ピースおおさか国際平和センターからお借りした大阪大空襲の写真パネルなどを、区役所1階の区民ギャラリーに展示し、区役所を訪れる区民の方々にご覧頂きました。

期間

平成27年8月3日（月曜日）から
平成27年8月27日（木曜日）まで

場所

区役所正面入口 ギャラリースペース



第41回 都島区民まつりでの展示



子どもから大人まで、幅広い参加者でにぎわう区民まつり。地域団体、NPO 団体の出展と一緒に、区役所ブースでは、区民の皆さんからご提供いただいた戦争当時の貴重な写真などを展示しました。

区役所の若手職員を中心とする“職場改善チーム”メンバーを中心に、46点を作成し、展示しました。



写真を食い入るように見つめる子どもたちに、ご年配の方が、当時の様子を説明されることもありました。

日時

平成27年9月26日（土曜日）

場所

毛馬桜之宮公園

デジタルアーカイブ

区民の皆さんからご提供いただいた戦争当時の貴重な写真などを、次世代に残し、伝えるため、オープンデータとして、デジタルアーカイブに保存・公開しています。



都島区 戦後アーカイブ

検索

<http://www.city.osaka.lg.jp/contents/wdu520/miyakojima/sengo/>

オープンデータとは

商用利用や2次利用が可能で、かつ機械判読にも適したデータ。広くビジネスや身近な公共サービスへの活用が期待されている。

地域の取組

京橋駅空襲被災者慰霊祭



京橋駅での被災者を祀るため、昭和 22 (1947) 年に慰霊碑が建立され、昭和 30 (1955) 年から毎年、爆撃のあった8月14日に妙見閣寺(旭区)により慰霊祭が営まれてきました。

慰霊祭も当初は 10 名ほどの参列だったそうですが、年を重ねるごとに増加し、今では約 250 名に。世話人会の事務局も務める妙見閣寺では、より多くの方に来ていただき、この恐ろしい事実を語り継ぎ、平和のために貢献したいと考えられています。

平成 27 年も、8 月 14 日 (金曜日) 午前 11 時から、京橋駅南口の慰霊碑前で執り行われました。戦後 70 年の節目ということもあり、テレビ・新聞などでも広く取り上げられました。



8 月 14 日。その日は、軍に召集された兄を見送るため、大阪駅に向かう途中でした。

京橋駅に着いた時には空襲が始まっており、駅員が電車から降りて退避するよう叫びます。母と手をつなぎ改札口まで逃げますが、爆発で駅舎が揺れ、気付いたときには、がれきに埋まっていた。私は助け出されましたが、そばにいた母も、別の方向に逃げた兄も亡くなっていました。

それからは母が残した着物などを売って食料を買います。思い出すのもつらい経験でした。

「あと 1 日、戦争が終わるのが早ければ。」

その想いを抱えながら、慰霊祭に参列しました。

京橋駅空襲被災者慰霊祭 遺族代表 吉富 玲子 様

東都島戦没者追悼式

平成 27 年 6 月 7 日（日曜日）13 時から青都荘前の榎並地蔵において、戦没者追悼式が行われました。70 年前に都島区で起こった痛ましい爆撃の事実を風化させないように、世代を超えて哀悼の意を捧げられました。

追悼式では、当時のことを知っていただくため、戦争遺品が展示されました。また、内藤磯美さんにより、当時の様子を描かれた絵が展示され、紙芝居も上演されました。

式の様子は、東都島まちづくり協議会さんのブログでも紹介されています。

（左下の写真は武運を祈願して「武運長久」と書かれた日章旗で入隊の際に作られたものです。）



東都島まちづくり協議会ブログより 平成 27 年 6 月 9 日

去る 6 月 7 日（日曜日）13 時から青都荘前榎並地蔵において、戦没者追悼式が行われました。70 年前の同 6 月 7 日に都島区で起こった痛ましい爆撃の事実を風化させないように、世代を超えて哀悼の意をささげました。

大切に保管されていた当時の資料を目の前でみせていただき、こみあげるものがありました。資料としてガラスケース越しや、写真で見ることがありましたが、目の前で見ると身近に感じ、考えることができました。こうした、苦い歴史を繰り返すことの無いようしっかりと伝えていかなくてはならないと改めて考えさせられました。

先の戦争で大阪は 50 回を超える空襲に見舞われ、多数の方が犠牲となり街は焦土となりました。焦土の中、住民はバラック建設からスタート、今の繁栄を築きました。



東都島連合 小林様

その先達の生活体験などが、この時を逃すと失われるとの思いから榎並地蔵にて戦後 70 年戦没者追悼式を行いました。

当日、戦争体験者の方々に焼夷弾攻撃の怖さ、戦後の食糧難についてなど貴重な体験をお話しいただき、改めて戦争の悲惨さと平和の尊さを伝える事の大切さを皆様と共有できました。

今後も戦没者追悼行事を続けることで、子ども達に戦争のない平和な世界を築くための一助になればと思います。

区内の史跡



渡辺綱・駒つなぎの樟

長徳年間（995-998）に、大江山鬼退治で有名な源頼光が源氏の八幡大神を祭り、この地に産土神社を創建。

頼光自ら植えたと伝えられる樹齢 900 年と推定される樟は、昭和初年大阪府天然記念物第一号に指定されました。

しかし大空襲で枯死し、現在は往時の姿を偲ばせるだけになっています。

善源寺町 1-11

都島神社

昔この地はしばしば洪水に見舞われました。その惨状をあわれんだ後白河法皇により、毛馬、旧沢上江村（滓上江とも書く）、友渕など 8 つの村が協力。守護神として永暦元年（1160）にこの神社を創建しました。

空襲により社殿が焼失、昭和 24 年に再建されました。

都島本通 1-5



内代公園「祈平和」碑

都島区が初めて空襲を受けた昭和 20 年（1945）年 6 月 7 日、20,904 戸が焼失、343 人が死亡、73,200 人が罹災しました。

内代公園には、地域の方々が昭和 53 年（1978）に建立された碑があります。

「内代町も同年 6 月 7 日折からの大空襲に一瞬にして火の海となり降りそそぐ焼夷弾、機銃掃射によって老若男女、幼児に至る 60 有余名が悲惨な犠牲となられました。」(碑文より一部抜粋)

内代町 3



平和地蔵尊

都島北通公園の平和地蔵尊の、お地蔵さんには、鉄カブトをかぶる兵隊さんの姿があります。

都島北通 2-4



榎並地蔵

京街道沿いにあるこのお地蔵さんは、“由緒”によりますと、「京街道沿いに、古くからの野江村の方々により、大切にお祀りされてまいりました」とあります。

毎年、地域の方々により、戦没者追悼式が行われ、70年前の第3次空襲の歴史を風化させない取組が続いています。

都島中通 3



京橋駅爆撃被災者慰霊碑

終戦前日の昭和20年（1945）年8月14日の大阪砲兵工廠の空襲では京橋駅が1トン爆弾の直撃を受け、確認されただけでも236人の死者を出しました。当時、地獄のような惨状を目撃した大東市の森本栄一郎氏が、あまりの悲惨さに胸を痛み、その霊を弔おうと昭和22（1947）年8月14日、自費で建立された慰霊碑です。

「流れ弾の一トン爆弾が四発、京橋駅に落ちた。うち一発が多数の乗客が避難していた片町線ホームに高架上の城東線（現、環状線）を、突き抜けて落ちたため、まさに断末魔の叫びが飛び交う生き地獄そのものであったという。」（説明文より一部抜粋）

片町 2-3



平和よ永遠なれ

JR 京橋駅南口ロータリーにあるこの像は、大阪城東ライオンズクラブにより昭和 59 年 8 月 1 日に設置されました。

このモニュメントは当時、医師として被災者の治療にあたった会員の提言を受け、爆撃で亡くなられた方々の慰霊と平和を祈念するため建てられたといわれています。

片町 2-3 JR 京橋駅南口ロータリー

